



誰が何と言おうと・・・(人間の心理)

ケアマネジャー 飯島 孝子

Kさん(女性・86歳)は、長男夫婦と3人暮らし。地域の中で、お元気に暮らしておりました。

昨年9月に自転車で転び、大腿骨を骨折して3ヶ月入院。その後リハビリ治療のため転院。1ヶ月経過したところでカンファレンスがあり、主治医より病院生活が長くなると、認知症状が出てくるという理由で退院を勧められました。

Kさんは、一軒家の2階を寝室としていたので、主治医からは、退院後は1階で寝起きするように言われました。しかしKさんは、何としても2階で寝起きしたいと強く主張されます。ケアマネもKさん宅の写真を撮ってきて、29センチある上がりかまちが上がること、12段の階段の登り降りができることをリハビリの目標とすることをお願いし、骨折から6ヶ月でようやくご自宅に戻ることができました。

Kさんは、以前から長男夫婦を頼りなく思っており、家の全てを切り盛りしておりました。入院中も、親戚つきあいから日々の生活まで事細かく指示しておりました。

退院後の生活の支援を相談したところ、現在の家のお風呂の状態では入浴ができないので、長男夫婦はデイサービスでの入浴を希望。主治医からも、デイサービスへ行

きリハビリをするように提案されました。

入院前から訪問していた訪問介護事業所も、退院を機にデイサービスを利用するのが良いという意見。ケアマネも、Kさんと長男夫婦の3人で、1日中顔をつきあわせていることは厳しいだろうと思い、同意見です。Kさんもしぶしぶ承知しました。

さっそく①入浴ができる②リハビリマシンがある③区内で昼食代が一番安くて、美味しい④カラオケルームが売りのデイサービスを探し、退院の二日後からデイサービスに行くことを伝えました。

ところがKさんは、「家に帰った報告を皆に電話しなければならない。入院してお見舞いをいただいた方々に、お返しをしなければならない。不義理をしていた親戚に挨拶に行かなければならない・・・・・・。デイサービスなどへは行ってられない」と、憤懣やるかたない感じで最初は行きませんでした。Kさんの仰とおりで。

デイサービス2回目。「とにかくゆっくりにお湯に使ってきてください」の言葉に押され、しぶしぶデイサービスへ行きました。ところが「カラオケが、皆が上手すぎて、私は恥をかきに行ったようなものだ!」と、お怒りの様子。

なんとも最初からつまずいてしまいました。

デイサービス3回目。「風邪をひいたので休みます」という連絡が早々にはいりました。心配していたところ、たまたま訪問した福祉用具の事業所の方から電話がはいり「あれえ？Kさん、今日は美容院へ行っていきますよ！」

一瞬驚いたものの、髪は女の命！

Kさんは、女性でした！

本当の理由が言えなかったのです。

1ヶ月様子をみましたが、結局デイサービスは利用されませんでした。Kさんに確かめると「お風呂は夜、寝る前に入るもの。デイサービスで日中はいったから、湯冷めして風邪をひいてしまった！私は一旦風邪をひくと、全く治らない性質なんだよ。命を削ってまで、デイサービスに行けというなら、行くよ！」とのこと。

ご家族・介護サービス提供者、皆がKさんにデイサービスへ行っていただくことをあきらめた瞬間でした。

結局、福祉用具事業者にKさん宅のお風呂環境を整えてもらい、家族の協力を得て、ご自分の好きな時間に、好きなように入浴され、今ではすっかり元気になりました。

もちろん、希望だった2階での寝起きもされています。

ケアマネジャーとして、ケアプランを立てる際に、ご本人の気持ちを十分お聞きし、家族との思いの調整をすることが大切だと、実感させられたKさんでした。つい介護される家族の大変さを考え、家族寄りになってしまったかもしれません。

またKさんの「普通感覚」を大切に、一方的な押し付けにならないように気をつけなければと改めて気付かされた支援でした。

(◆北村 記 このようにご本人の気持ちを理解することは容易ではありません。しかし、ケアマネジャーは家族や関係者とともにいろいろ方策を検討していることが理解できます)

この「ケアマネ日記」シリーズでは、ケアマネジャーの日頃の経験を踏まえ、介護している人、また今後介護するであろう人向けに生活のヒントを提供しております。